

かざとづくり 風人造

風人造（かざとづくり）とは、日本特有の『風を重んじる空間設計』を現代に再解釈し、縁側・欄間・簾・風鈴といった伝統的な要素を組み合わせ快適性を生み出すデザインコンセプトです。風の流れを考慮し、高窓や開放的な縁側を設けることで、自然換気を促進。そして本プレゼンでは風人造を生涯学習施設に取り入れることによって子供たちに限定せず大人そして外国人が自然と調和した空間を学び、成長できることを目指します。風と共に生きる日本の文化を、現代の建築に昇華させた持続可能なデザイン手法を提案します。

0.背景

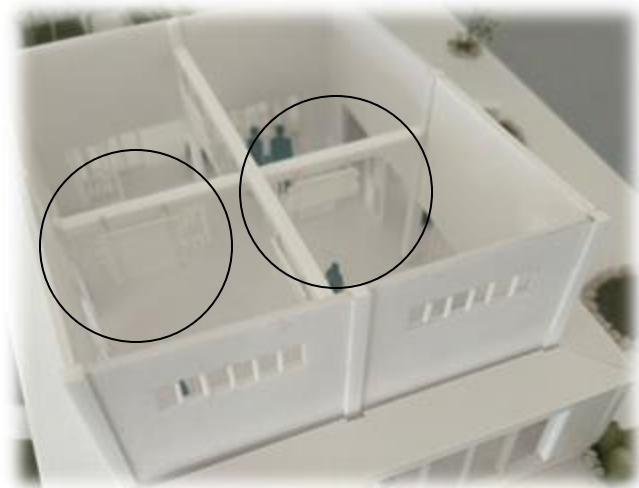
海外では風を感じるというより
内と外とを隔てて空間を快適にする
建築が多い

→風を重んじるのは日本特有なのでは？

1.簾の役割

風の動きを視覚的に感じる
ための工夫
大きさのランダムな簾を
用いることにより、

→風の大きさも視覚的にわかる
→同時に風の流れも視覚的に感
じれる



2.色々な種類の戸の役割

欄間→外との空間を**感覚的**につなぐ
ガラス→外の木々が風で揺れるなど**視覚的**につなぐ
障子戸→和紙が風で動く音など**聴覚的**につなぐ
どこにどの戸を使うかを移動させることで風を操る
→子供たちの学びに繋がる



障子戸

欄間とガラスをランダムに混ぜる

